

足寄町のゼロカーボンパークへの取組み

～オンネトーエリアの魅力創出～

足寄町役場経済課商工観光振興室

商工観光エネルギー担当 主査 門野 亮介（担当7年目）

業務内容

→観光振興、観光宣伝、特産品関連、商工業振興

労働者関連、計量器、自然公園

資源・エネルギー、自然環境保全、公害対策

※室長1人、主査2人、地域おこし協力隊4人（うち2人は観光協会に派遣）

足寄町観光統計

• 令和3年度入込 356,100人 十勝で9番目 (今年度は42~45万人くらいの予想)

オンネトー 241,800人 十勝で6番目の観光スポット

道の駅あしよろ銀河ホール21 154,000人

※新型コロナウイルス感染症の影響あり

• 令和元年度入込 530,000人 十勝で7番目

オンネトー 259,000人

道の駅あしよろ銀河ホール21 247,000人

雌阿寒岳登山者数 10,500人

(阿寒湖畔からの登山者含む)

訪日外国人のべ宿泊数 417人 (令和元年度)

十勝で7番目 (十勝全体で162,704人)

平成10年頃から足寄町の観光入込は50万人前後 (コロナで減少)

旅行形態に変化がある 団体→個人に



足寄町の観光分類

分類	現在	未来の予測 (可能性)
①登山・キャンプ・アウトドア (雌阿寒岳、オンネトー)	 上昇	 上昇
②ファミリー・子連れ (公園、博物館など)	 上昇	 微増
③松山千春ファン (ゆかりの地めぐりなど)	 維持	 減少
④温泉・秘湯巡り (野中温泉、芽登温泉)	 維持	 維持
⑤足寄町のグルメ (螺湾ブキ・チーズ・パン・ハンバーガー)	 微増	 上昇
⑥足寄町の滝巡り	 少数	 少数
⑦道中の休憩	 微減	 減少

道の駅あしよろ銀河ホール21が情報発信の拠点、移動の中継点として機能。さらに立ち寄りやすい場所へ。

→キッズスペース設置、授乳室リニューアル、トイレリニューアル

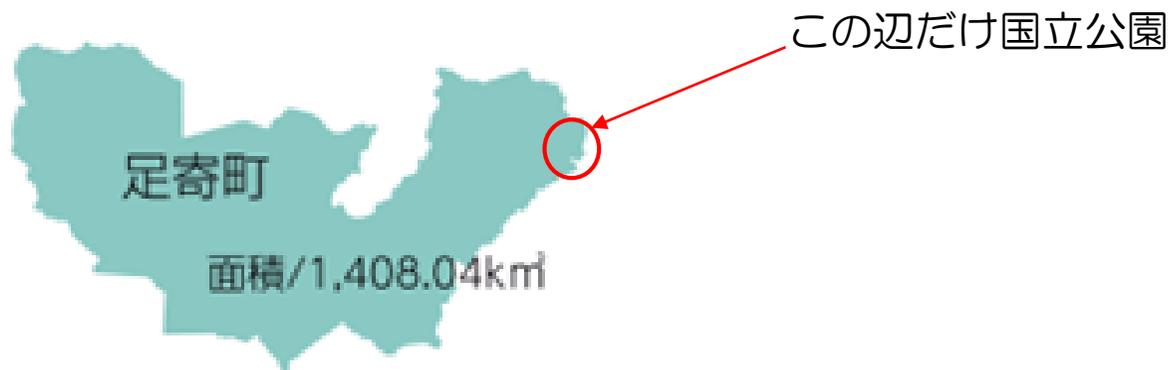
①と②が今後の足寄町観光振興において重要となる分野であり、⑤を絡めて相乗効果を狙っていくことが足寄町の地域経済活性化にもつながる。

阿寒摩周国立公園（オンネトー・雌阿寒岳）

- 阿寒摩周国立公園の特長

日本最大のカルデラ地形、火山・森・湖が織りなす広大な景観

⇒足寄町は、雌阿寒岳、アカエゾマツ純林などの原生林、オンネトー、オンネトー湯の滝など、阿寒摩周国立公園の魅力が詰まったエリア



令和4年3月に登録した阿寒摩周国立公園の北海道釧路市に加え、6月に弟子屈町、美幌町、**足寄町**が新たにゼロカーボンパークに登録され、全国で初めて複数自治体の連携によるゼロカーボンパークとなりました。

足寄町はどう条件を満たしたのか①赤字：休憩舎関連 青字：既存 オレンジ：今年度実施

(1) 令和3年9月1日ゼロカーボンシティ宣言

(2) ①地域資源による再生可能エネルギーの活用の推進

→オンネトー野営場休憩舎：薪ストーブ活用（現地風倒木・枯損木を薪として活用）

→民間宿泊施設による温泉熱の活用（野中温泉で温泉を利用した暖房）

②国立公園利用施設のRE100対応推進

→オンネトー野営場休憩舎のRE100対応予定（2025年までに）

③地域産材の活用とカーボンオフセットの取り組み

→役場庁舎、オンネトー野営場休憩舎等公共施設に地域材を活用した木造建築の積極的推進と木質ペレットの普及

→北海道森林バイオマス吸収量活用促進協議会によるカーボンオフセットクレジットの取組

(3) ①阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク構想の推進

→徒歩やE-bike等の非動力による移動手段を活用したトレイルルートの整備（全市町共通）

②公共交通機関の利用促進や次世代自動車の導入

→国立公園エリアへのアクセスの脱炭素化（足寄町は道の駅に急速充電設備設置済。充電設備は他に町内2か所あり（民間事業者））

③エリア全体での再生可能エネルギーの利用推進

→基幹産業である農業分野において畜産系バイオガスプラントを導入

足寄町はどう条件を満たしたのか②赤字：休憩舎関連 青字：既存 オレンジ：今年度実施

(4) マイボトル、マイバッグの推奨によるプラスチックごみ削減

→オンネトー野営場休憩舎にて徐々に推進（ウォーターサーバー設置など）

※そもそも野営場の炊事場・飲水栓で水汲める。。。

(5) ①主な国立公園利用拠点における普及啓発

→オンネトー野営場休憩舎での利用者への普及啓発

（デッキにて無電源の屋外用ペレットストーブも使用及び展示）

②企業との連携による普及啓発

→自然との共生を重視する企業理念を掲げている株式会社アンプラー・ジュインターナショナル（UPI）との環境保全活動及び普及啓発活動

→役場や観光協会だけでは活動に限界あり。同じ価値観で共に活動できる民間事業者は重要

(6) 2050年カーボンニュートラルの実現を図るため、令和4年度9月末に足寄町再生可能エネルギー導入計画を策定（当時は予定。現在策定済）

→ゼロカーボン達成に向け、役場内の委員会設立、町内官民関係者による協議会設立



オンネトー野営場休憩舎（UPIオンネトー）

○施設使用開始 令和4年6月1日

※毎年6月1日～10月31日までの営業期間
（オンネトー国設野営場と同じ営業期間）

施設機能

- 休憩、観光案内、飲食、シャワー、アウトドア用品販売・レンタル、フリーWifi、ワークショップ開催など
（現在携帯電話の電波なし、固定電話有（野営場管理棟も有））
※携帯電話の電波については3社共架電波塔について協議中。
- ワークショップ（グリーンウッドワーク、ブッシュクラフト、テントサウナ、焚火など）
- 防災拠点（防災ヘルメット、圧縮毛布、担架、エアマット、簡易ベッド、発電機など）
※今年度の雌阿寒岳遭難者捜索時に捜索拠点として活用。

令和4年6月～10月までの
 休憩舎利用者数 8,853人 ※手動カウンターで計測
 野営場利用者数 1,993人 ※過去7年平均1,713人
 R4野営場利用者 道内57% 道外43%
 （コロナ前 道内53% 道外40% 国外7%（平成30年））

暖房→薪ストーブ（十勝東部森林管理署の協力により薪は野営場周辺の風倒木、枯損木を使用）
 木造→道産カラマツ材使用
 電気→RE100対応予定（2025年までに）
 マイボトル使用によるペットボトル削減推奨、ゼロカーボンに向けた普及啓発発信施設



フェザースティック作成



焚火着火式





オンネトーの魅力創造委員会での協議

- ・官民（環境省・十勝総合振興局・足寄町・町内各団体・有志）でオンネトーエリアのあり方検討
- ・どのように利活用と保全のバランスをとっていくのか。そのためにどこに何の機能が必要なのか。



旧オンネトー茶屋→UPIオンネトー（町）
展望デッキ改修・ビュースポット階段（北海道）

既存の町・民間事業者・自治体連携での取り組みに加えて、オンネトーエリアのあり方検討をして整備した新施設ができ、さらにその理念を理解している民間事業者（UPI）が施設に入ったことで、ゼロカーボンパーク登録の条件を満たすことができた。

上手く条件に当てはまったというのが正直なところ。
まだまだ足寄町はゼロカーボンにおいて先頭集団にはいない。（目指せ第2集団の先頭）

役場内での理解ある仲間づくりをしつつ、住民のお得な情報やゼロカーボンパークなど「身近なゼロカーボン」を周知しながら少しずつ理解を高め、今後も一つ一つ足寄町のゼロカーボンに向けて積み重ねていきたい。

ウッドキャンドルナイト2023（1月28日開催）



カラマツの林地残材を活用したウッドキャンドル（スウェーデントーチ）やアイスクャンドルを楽しむイベント。追い上げ材（根元の端材）なども活用。様々な焚火台や無電源のペレットストーブも設置。林業グループの「あしよろ岐志会」や観光協会が中心となって実施。今年はUPIも参加してテントサウナ体験も実施。

林業の理解向上＋冬の観光イベント＋森林資源活用¹¹